

【表統領開会挨拶要旨】

- ・ひと月前より突然戦争が始まった。一れつ兄弟の観点から一日も早い紛争の解決、ご守護を真剣に祈らせていただきたい。
- ・世界的規模の事情が続いている。私たちは何をすべきか思案することは大切なことだと思う。我が事として考えるのは不得意かもしれないが、かの国の人々の無事を願い、難民の方々の無事を思い、事態の好転を祈るとともに、親神様にお受け取り頂けるような用木の御用にしっかり励ませていただきたい。
- ・140年祭に向かう旬、私たちの格好の力の入れどころだと思う。
- ・本部回付金も大幅な減額の予算の中、現状ますます体制を見直し、身の丈に合った努力をしっかりとらせていただきたい。審議していただいて予算に力を与えていただきたい。

【議案第一号】令和3年度教庁一般会計（附「道友社」「信者部炊事課」及び「天理教語学院」）歳入歳出予算補正案（第一回） [30日満場一致で承認]

- ・予算総額を歳入歳出共に5,289万円減額して83億2,500万円とする。

【議案第二号】令和4年度教庁一般会計（附「道友社」「信者部炊事課」「輸送部」「天理教語学院」及び「営繕部」）歳入歳出予算案 [30日満場一致で承認]

- ・予算総額は歳入歳出共に75億1,775万円（前年度当初予算は83億7,789万円）である。教会本部よりの回付金は64億523万円である。

【議案第三号】「教会本部規定」中一部変更の件 [28日満場一致で承認]

- ・別紙参照。

【29日分科会より】

【表統領室】・人員はますます減少していく懸念あり。少人数でどう乗り切るか思案している。

【学生担当委員会】・学修大学の部終了後48時間以内に陽性者出るが、学修で感染したかは不明。

- ・学修大学の部3/2~6は289名、3/8~12は209名、合計498名参加。

【信者部】・献米は毎年200トンほど。自主流通米25%、献米75%の比率で運営。勤務者数減少と高齢化が心配されている。日曜日の配食を休みにしたいが、詰所の対応もありすぐには決められないと思う。パン食は月1回、勤務者を休ませるため。

- ・各詰所は300万円~1,500万円の回付金で運営している。

【布教部】・「世界ろくじ」の刊行をデータ化する。白梅生は60名定員のところ現在40名。

- ・教区活動は励まし合い、助け合い。と以前真柱様は仰せられた。

・年祭に向けての社会貢献は、目前の人の心だすけを目指す、困難を抱えている人へのおたすけ活動を柱に、6月に戦略会議を開き、1月までには教会でこんなことができますよという材料を示していきたい。

【教務部】・教報交付費（みちのとも、天理時報）が令和3年度より道友社へ移管。

- ・吸収合併に伴う事務等のため、直属担当者名簿を作成し教区担当者へ配布。
- ・教務支庁交付金は変動なく、前年同様の額。〔別紙参照〕

【総務部】・埋蔵文化財調査団の運営は来年度より参考館（学校本部）へ移管。

【少年会】・リトマガはH29年は33万部、現在は24万部発行。

【天理大学】・大学入学者は定員770名のところ599名。火水風寮の耐震化工事費は2億1千230万円。大学ラグビー場も工事へ。天理図書館は令和4年度へ。各学校とも授業料10万円値上げ、入学金は5万円減。

・天理高校専願者は合格ラインより45点低いところまで（56名）、天中よりの進学者は68点下がったラインまで（33名）合格。教会関係は専願で受験していただきたい。

【海外部】・この4月の外国語クラスは中止。ウクライナ情勢に関して、2.3の個別的な対応あり。

【天理教語学院】・今年度の入学式は4月28日に実施。40名程度が間に合ってくると予測。

【天理教校】・本科研究過程の卒業生7人は上級青年、おちば勤務、1人は就職。各教区から研究過程へ送り込んでいただきたい。

【天理教校学園】・2月に数十名の感染者が出たが、無症状、軽症者が多く大事に至らなかった。

【社会福祉法人天理】・里親や児童養護施設などの事業について、以前は15歳までの制限があったが、18歳、20歳、22歳と伸び、これからは本人が自立できるまで年齢制限を設けないことになる。

【天理よろづ相談所】・事情部講師は70名だが、コロナ禍のためこの2月3月は常勤の5名で勤めている。

【輸送部】・輸送部前のバス駐車場にホテルが建設中だが、大型バスの駐車場は他で対応できる。

【管財部】・豊田山舎と墓地が祭事室へ移管。

【30日一般質問①】「道友社の現状の問題点と今後の展望について」 園田 幹男（大分）

1. 道友社の現況について〔答弁：松村社長〕

・定期刊行物「みちのとも」16,800部、「天理時報」88,000部、「特別号」414,500部、「すきっと」13,500部（年2回）、「リーフレット」400万部、「にをいがけチラシ（2円30種）」年に90万部、読書会配本単行本は年4冊発行。ラジオの聴取者は170万人。

・手配りは2007年スタートし、2014年に50%到達。現在はコロナ禍もあり32%。

2. 『天理時報』について〔答弁：諸井次長、橋本業務課長〕

・手配りひのきしんは2007年スタート。256支部で定着。ひのきしん者は高齢化が進んでいる。
・タブロイド化により、若い人にも手に取って貰える。レイアウトが自由になる。諸行事の掲載頻度は減らす。デジタル化に対応し、各所にQRコード配置で写真や動画を見れるため、掲載スペースに限度が無くなった。若者の紙離れにも対応しているが、高齢者はQRコードへの対応が向きという課題がある。

3. 出版及び新刊図書について〔答弁：諸井次長、橋本業務課長〕

・新刊図書は年8件を予定。読書会配本は4件。中島みゆき詩集は20,068冊（アマゾン購読2,300冊含む）。

・「いきいき通信」は地域へのにをいがけ用パンフ。月次祭のお下がりや教会報に添えて配布されている。

・「すきっと」はR167年、年祭活動に向けて発刊。現在35号。205人のすきっとサポーターが病院、理美容店などへ配布している。

・最近はおんデマンド印刷で100部単位で出版可能。文庫版やフォトブックスなどで活用。

- ・読書会には4,432名が加入。加入者が高齢化し、次代へどうつなげるかが課題。
- ・勤務者が半減している中、発刊発行に頑張っている。

4. インターネットの活用について〔答弁：諸井次長〕

- ・Webチームが各部署のホームページ作成にアドバイスしている。
- ・天理教ホームページ上に「お道のニュース」掲載、SNS上にも展開中。
- ・電子版書籍は現在22タイトルで、増やしていきたいが相当技術が要る。
- ・ラジオ「天理教の時間」はスマホでも聞ける。
- ・総務省調査では、20代の1日のネット閲覧は255分、新聞は1,7分、TVは118分となっている。

5. 社友制度について〔答弁：橋本業務課長〕

- ・年間で記事投稿は直属社友39件、教区社友38件、支部社友19件。
- ・社友ラインの運用もスタート。各種情報や天理グラフなども発信。

6. 道友社の役割と今後の展望について〔答弁：松村社長〕

- ・4階のスタジオ貸し出しは機材の不備等により困難。今は倉庫として利用。
- ・今後も届けなければならないもの、必要としていることをちゃんと届けていきたい。
- ・教祖のお考えからぶれないもの、人々の心に響くものを作っていきたい。女性目線、若年層目線の企画も考えたい。
- ・社友を通して伝えていくことを洗い直して、布教活動を後押しできるようにしたい。
- ・予算的に厳しい状況で、社員も減少の中、企画や活動を絞り込んでいく作業も必要。

【30日一般質問②】「コロナ禍を経て、これからの学生層の育成について」 鈴木 勝郎（高知）

1. 今期3年間の学生担当委員会の活動を振り返って〔答弁：茶谷委員長〕

- ・R183おせちひのきしん以後、活動できず。学生会の活動も中止で一部リモートで実施。
- ・各教区で次期学生会委員長を立てられないという状況も続いた。学生を取り巻く環境が激変。
- ・LGBT、発達障害、里親制度、成人年齢の引き下げ、ヤングケアラーなどへの理解、対応で委員部員、本部スタッフに啓蒙続けている。

2. おちばでの開催行事（春の学生おちば帰り・学修大学の部、高校の部、高校生卒業生コース）の今後について〔答弁：辻副委員長〕

- ・各行事へリモート参加を同時進行でできないか考慮中。
- ・R183～184年は行事中止。オンラインの集いの視聴は累計5千回超える。
- ・今年の春学には真柱様のメッセージ頂く。ダイジェスト版動画を3/31配信。
- ・大学の部は来年以降も4泊5日で開催。高校の部も日程見直しで4泊5日で開催。来年以降は白紙。
- ・卒業生コースは2泊3日のためか、参加者が増え続けている。

3. 教区での（ワーク&トーク、まなびばなど）について〔答弁：松山事務局長〕

- ・「W&T」は地方では実行委員の学生を探すのが大変。令和2年度で助成金打ち切り。東海ブロックは35名でリモートで実施。
- ・「まなびば」はR165スタート。43会場で135名参加。昨年度はリモート開催支部が4会場、今年度は12会場で実施。
- ・道友社とのタイアップ企画で、時報を利用した勉強会も盛り込んだ。

4. WEB「Happist」について〔答弁：松山事務局長〕

・「はっぴすと」1冊以上の購読教会は35%あったが、H30年3月よりWEB化へ。活字離れや編集部員の確保ができないため。

・WEB化は学生に身近なものを提供できる。魅力的なコンテンツになるよう更なる発展を目指したい。教会長からの手渡しツールとして、4頁のリーフレットを毎月発行。

5. コロナ禍を経て、これからの学生層の育成について〔答弁：茶谷委員長〕

・R177年の担当者大会で真柱様から「表に見える面の世話取り、内面の世話取り」のお話があった。内面の世話取りに重点を置いて進めた方が相応しいとねりあいを重ねている。

・行事ができずとも、できることはゼロでは無い。日常の丹精が大事。

・婦人会、青年会と協力して、過去の受講者がどのように教会に繋がっているか調査中。

6. これからのお道の人材育成・丹精における学生層の育成について〔答弁：中田表統領〕

・まだまだ発展途上の活動です。信者家庭での丹精、幼い頃からの働きかけが大事。

・信者さんに子供が生まれたら、言葉や態度でしっかり丹精させていただく。我が子にも一人の人格と見て、匂いを掛けるという認識が必要。

・「親里で学ぼう」という気運が提唱されてきたが、子弟には親里のどこかの学舎で学んでほしい。それによって、おぢばは行く所ではなく帰る場所になる。出た人だけが分かる感覚と思う。

・高校～教校・大学～本部勤務、この流れにのれば教友や仲間が増えていく。国の奨学金制度で一つ会が不要になり、上記のコースを目指さなくなった。親世代にしっかりおぢばを目指すよう丹精いただきたい。

・未信者学生は卒業すれば離れていくが、残る人も少しはいる。声を掛け続けるしかない。

・教会長子弟全員が繋がっている教会は少ないのではないか。教会長子弟が第一に繋がっていくよう声掛けを続けたい。

【表統領閉会挨拶要旨】

・今期勤められた先生方、ありがとうございます。来る三年千日が全教的な成人の旬になるように、教会長さん方に気持ちの準備の働きかけをしていきたい。

・コロナ禍も戦争も年祭活動も、親神様から見れば全て繋がっている。一つ一つのことを意味を持たせること、それらを繋ぎ合わせること、先の中長期的な姿を見据えて勇み心を沸き立たせていかねばなりません。

【その他】

①4/18「喜びの大合唱」が「喜びのハーモニー」へ変更。内容不明。

②4/19 婦人会総会は中庭で開催。5千名を対象として。

③先刻の福島沖地震により、福島教区内では11箇所の教会が被災。仙台大も壁崩落。

④天理大、医療大の合併に関して、要望を各教区で訊ね、青木集会員に連絡。

⑤仲野災害対策委員長より災害対策基金の報告。2月末で390件、27,175,111円。災害がなく使用していない。本部災救隊出動に際し使用。3月末決算は6月に発表。